

保管食品数を中心とした冷蔵庫調査

明和女子短大家政 ○嶋村孝 堀口恵子 六平いく子

東京家政学院短大 桑野和民

目的

国産冷蔵庫が発表され60年以上の歴史がある。電気冷蔵庫は冷やすだけの機能から食品の種類ごとに能率よく冷却貯蔵する庫内に改良され、さらに冷凍機能まで付け加えられ、日常生活に欠かせない電気製品のひとつである。そこで我々は、各家庭で四季を通してどのような食品が何g位冷蔵庫に保存されているのかを調べた。さらに冷蔵庫の容積、家族人数、購入する店、買い物回数などをアンケートにより調査した。

方法

食品数調査：明和女子短大生の家庭で使用している冷蔵庫内の食品数と重量を春夏秋冬の年4回、4年間調べた。

アンケート調査：冷蔵庫の容積、家族人数、購入する店、買い物回数などを調査した。

結果

冷蔵庫内における食品数の4年間の平均は24種類であり、四季を通して野菜類が一番多く利用され、次いで調味料及び香辛料、乳類であった。一番少ないのは、砂糖及び甘味料であった。

アンケート調査結果では、冷蔵庫の容積は4年間で200ℓ代から300ℓ代になり、1人当たりの容積は40ℓ代から60ℓ代にと増加していた。家族人数の平均は4.5人であり、おもに食品を購入する店は、70%がスーパーマーケットであり、買い物回数は、37%が2日おきであった。